

---

## 株式会社PIJINと横浜市が多言語対応強化に向けて連携協定を締結 賑わい創出に向けた公民連携事業にQR Translatorが採用 ～クルーズ旅客等の来街者への観光・防災情報提供で多言語対応を強化～

---

多言語表示サービス「QR Translator」の開発・運営事業を手掛ける株式会社 PIJIN（所在地：東京都中央区、代表取締役：松本 恭輔）は、横浜市（市長：林 文子）と、同市が設置・運用する公民連携提案窓口「共創フロント」を通じて提案を行った「QR Translatorの活用による多言語に対応した賑わい創出」を目的とした「連携協定」を平成30年9月18日に締結しました。



本プロジェクトでは、クルーズ旅客を中心とした国内外からの多くの来街者に対し、限られた滞在期間の中で横浜の魅力を最大限感じていただくため、オールインワン「横浜観光ナビ」スマホ Web アプリを開発します。

これにより、横浜市内の観光案内から災害時の情報提供まで、フェーズフリー（※）な情報インフラを実現し、外国人観光客に利便性の高い街づくりを推進していきます。

### ①大規模整備が進む都心臨海部の賑わい創出が目的

本プロジェクトでは、クルーズ旅客やクルーを中心とした来街者に対し、QR Translatorを活用して開発する多言語に対応した賑わい創出ツールを提供し、横浜の観光スポットへの手軽なアクセスを実現することにより、東京2020オリンピック・パラリンピック等、世界が注目する大規模イベント開催時における国内外からの集客向上、都心臨海部の賑わい創出等の更なる推進を目的としています。

### ②観光インフラ整備強化のために企業からの広告費等で資金調達

8月15日時点で今年の訪日外国人旅行者数が2000万人を突破し、昨年より約1カ月早く、過去最速のペースで推移しています。観光庁は国際観光振興法の一部改正を受けて、外国人観光旅客利便増進措置に関する基準およびガイドライン案を取りまとめたものが発表され、情報インフラの整備が求められています。

整備にかかる費用を企業からの広告費等で資金調達し、2019年、2020年と大規模イベント開催が続く中、率先して横浜市と短期間での外国人観光客等の利便性向上の実現に取り組んでまいります。

### ③災害時にはアラート連携による災害情報提供も可能に

相次ぐ災害が全国各地で発生しており、外国人観光客からも不安の声が広がっています。本プロジェクトでは平常時の観光情報提供による利便性向上はもちろん、同じ情報経路を活用することで、災害時にも街中で簡単に災害情報を知ることができる環境づくりもサポートしていきます。平常時の利用も含めたフェーズフリー（※）な情報インフラを目指します。

※フェーズフリーとは

平常時や災害時などの社会の状態に関わらず、いずれの状況下に於いても、適切な生活の質を確保する上で支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くための施策およびそれを実現する概念。

## 【オールインワン「横浜観光ナビ」スマホ Web アプリの開発について】

### 1 Web アプリの特徴

- (1) 街中の案内板等に設置したQRコードを読み込むと、利用者の使用言語で Web アプリが起動します。（最大15言語を表示可能）
- (2) 観光客の好みやニーズ、空き時間に合わせ、地図や写真で観光ルートを提供します。
- (3) 利用者がおススメするスポットやイベント・グルメ情報がSNSで投稿され、横浜の新たな魅力や最新の観光トレンドが一目で分かります。
- (4) 外国人観光客が気軽に買い物できるよう、キャッシュレス決済に対応します。
- (5) オフライン環境においても観光情報をスマホに表示出来ます。
- (6) 災害時には、多言語化した避難先情報などを提供出来ます。

### 2 連携開発

株式会社PIJINと横浜市との協定事業により Web アプリを開発します。



※画像はイメージです

- (1) 協定締結日 平成30年9月18日（火）
- (2) 主な役割分担  
横浜市：Webアプリへのアクセス箇所の確保やクルーズ旅客を中心とした来街者へのプロモーションを行います。  
(株)PIJIN：Webアプリの開発及び運用と、それに係る費用を外部から資金調達をして提供を行います。

### 3 スケジュール

平成31年4月～ 運用開始予定

## 【多言語表示サービス「QR Translator」について】

QR Translator は株式会社 PIJIN が提供している QR コードを使った多言語表示サービスです。ユーザーが QR コードをスキャンするだけで、ユーザー端末の設定言語が認識され、自動的に翻訳文を表示します。

QR コード（二次元コード）を利用した、情報インフラ・プラットフォームサービス

外国人が母国語で情報が読める ように、多言語のコンテンツをつくる仕組み を提供



■利用イメージ：神奈川県藤沢市、奈良県奈良市、愛媛県内子町



### ■主な機能

- ・専用アプリ不要：QR コードをスキャンするだけなので、専用アプリのダウンロード不要
- ・39 言語対応：最大 15 言語の選択が可能
- ・貼り替え不要：web 上で簡単にコンテンツの修正・更新が可能
- ・音声読み上げ機能つき：障がい者の方にも情報を届けられるインフラ・サービス

### ■主な受賞実績

- ・2016 年 世界発信プロジェクト「革新的サービス大賞」
  - ・2017 年 Keihanna Venture Championship「特別賞」
  - ・2017 年 九都県市のきらりと光る産業技術表彰「東京都代表」
  - ・2018 年 ジャパン・レジリエンス・アワード「強靱化大賞」
- ※「フェーズフリー」は株式会社スペラディウスの登録商標です。  
※「QR Translator」は株式会社 PIJIN の登録商標です。  
※「QR Translator」の仕組みは、日本と米国、ロシア、中国、香港でビジネスモデル特許を取得済です。

## 【株式会社 PIJIN について】

本社：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-6-3 山本ビル別館 8 階

代表者：代表取締役社長 松本恭輔

TEL：03-4531-9690

URL：<https://jp.qrtranslator.com/>

事業内容：多言語表示サービスの開発・運営事業